

裾野市立小・中学校の教育職員に関する
業務量管理・健康確保措置実施計画

令和8年3月
裾野市教育委員会

目 次

1. 計画の趣旨・現状	2
2. 目標	2
3. 計画の期間	3
4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容	3
5. 関連する取組、今後のフォローアップについて	5

1. 計画の趣旨、現状

(1) 計画の趣旨

現在、教育職員の業務が長時間に及ぶ状況が課題となっており、教育職員の働きやすさと働きがいとを両立し、学習指導要領等において目指している理念の実現に向けてよりよい教育を行うため、学校における働き方改革が急務となっている。

国は、令和7年6月に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律を公布した。これにより、教育職員のサービスを監督する教育委員会には、文部科学大臣が定める「公立学校教育職員の業務量の適正な管理その他の措置に関する指針」に即して、サービスを監督する教育職員の業務の量の適切な管理その他健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置の実施に関する計画を定めることが義務付けられた。

本計画は、その指針に基づき、教職員の勤務実態を適切に把握し、健康で働きがいのある職場環境の整備を目的とする。また、これらの職場環境の整備によって、裾野市第3期教育振興基本計画（令和8年度～令和12年度）の理念である、「共に学び、つながり合い、多様な個性を活かしながら、未来を拓く人づくり」の実現を目指していき、多様性にあふれる社会の中で、人と人とがつながり、個々の力を結集し、互いに補い合いながら未来を切り拓いていける人を育てていく。

(2) 本市の現状

本市では、令和2年4月に、所管に属する学校の教育職員の在校等時間の上限に関する方針として、「裾野市立学校職員の在校等時間の上限等に関する規則」を定め、教育職員の在校等時間の管理及びその時間の縮減に取り組んできた。

こうした取組の結果、本市における教育職員の時間外在校等時間の状況について、令和6年度は以下のとおりであった。

【令和6年度の時間外在校等時間の状況】

	年平均	月45時間を上回る割合	月80時間を上回る割合
小学校	月36時間	30.3%	5.6%
中学校	月47時間	50.4%	14.0%

時間外在校等時間が45時間を超える割合が小学校では30.3%、中学校では50.4%と多くなっている。勤務時間外の保護者対応や調査・アンケートへの回答などの業務の負担感が大きくなっており、教育職員の業務量を適切に管理するとともに、教育の質の向上のために必要な時間的余裕を創出することが必要である。

2. 目標

本計画において達成を目指す目標は以下のとおり。

(1) 時間外在校等時間に関する目標

- ・1箇月時間外在校等時間が45時間以下の割合を100%にする
- ・1年間における1箇月時間外在校等時間の平均時間を30時間程度にする

(2) ワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標

【カッコ内は令和6年度の数値】

- ・年間の年次有給休暇の平均取得日数15日以上を維持する【17日】
- ・ストレスチェックにおける高ストレス者の割合を5.0%まで減少させる【11.9%】
- ・教育職員が、児童生徒や保護者との信頼関係の構築や専門性の発揮などにより、生き生きと教育活動に取り組み、働きがいを実感できることを目指す

3. 計画の期間

令和8年度～令和10年度

4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容

本市では、本計画期間中の重点事項として、以下の内容に取り組む。

(1)「業務の3分類」を踏まえた業務の見直し

イ 学校以外が担うべき業務

- ◆登下校時の通学路における日常的な見守り活動等（「3分類」①関係）
 - ・各地域の実情を踏まえつつ、児童生徒が学校に登校する時間の見直しを推進。
「地域安全推進員」や「防犯ボランティア」、PTAなどを通じて、保護者・地域住民による通学路の見守り活動を推進する。
- ◆放課後から夜間などにおける校外の見回り、児童生徒が補導された時の対応（「3分類」②関係）
 - ・放課後から夜間における見回りについては、裾野市青少年補導センターが行っている見回りに委ねることとし、学校における自主的な見回りは原則行わないこととする。
 - ・学校警察連絡協議会等において、補導された児童生徒の引取りについては、保護者が第一義的な責任を負うことについて認識を共有する。
- ◆学校徴収金の徴収・管理（公会計化等）（「3分類」③関係）
 - ・給食費について、市の歳入予算に組み入れて公会計で管理することを継続する。
- ◆保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等の学校では対応が困難な事案への対応（「3分類」⑤関係）
 - ・令和9年度中に、直接苦情等に対応する相談窓口を設置するとともに、学校が弁護士等の専門家を活用できる環境を整備すること等により、教育委員会等の行政機関の責任において当該苦情等に対応できる体制を構築する。

ロ 教師以外が積極的に参画すべき業務

- ◆調査・統計等への回答（「3分類」⑥関係）
 - ・校務支援システムの機能等を活用することによって、市から学校に発出される調

査の回答に係る事務負担を軽減する。

- ・学校事務体制の強化のため、共同学校事務室と協働し、学校事務業務の効率化を図る。

◆体育館や学校プール等の施設・設備の管理（「3分類」⑨関係）

- ・体育館の地域開放施設の管理業務について、教育委員会において外部委託を行う。また、学校プールの老朽化に伴い、水泳授業の外部施設利用について検討を進める。

◆部活動（「3分類」⑬関係）

- ・令和9年度中に、原則、休日の全ての部活動の地域展開を実現する。また、平日の部活動については、活動時間等の適正化を図るとともに、部活動指導員の配置拡充等を進める。

ハ 教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務

◆授業準備、学習評価や成績処理（「3分類」⑮⑯関係）

- ・校務支援システムの機能を活用することによって、授業準備、成績処理等に係る事務負担を軽減する。

◆支援が必要な児童生徒・家庭への対応（「3分類」⑲関係）

- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・特別支援巡回相談員等の生徒指導および特別支援関係の校内会議への参加を推進し、専門的な知見を活用しつつ教職員が連携・協働した支援体制を構築する。
- ・教育委員会において、医療・福祉・警察等の関係機関と学校との連携に関する研修を実施することで、学校が組織として関係機関と連携・協働し、適切な役割分担のもと支援を行うことのできる体制を構築する。
- ・医療的ケア看護職員、特別支援教育支援員等の医療・福祉に関する専門的な人材の学校への派遣を拡充する。

（2）学校における措置の推進

学校における以下の措置を推進することで、教育職員が担う業務の適正化を図る。

- ・各学校の教育課程における年間総授業時数や週当たり授業時数については、年度当初の計画段階で真に必要な時数となるよう設定する。特に、標準授業時数を大幅に上回って（小4以上は年間で1086単位時間以上）編成されている場合には、指導体制に見合うものとなるよう見直す。
- ・当初の狙いが形骸化し十分な効果が見込めない活動等の見直し、清掃時間・頻度の見直し、放課後の活動時間の勤務時間内での設定など、日課表の工夫を行う。
- ・デジタル技術の活用により、校務を効率化し、「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」に基づいた自己点検の達成状況を、60%以上にする。
- ・勤務時間外の留守番電話機能や電話の録音機能の設置について検討する。
- ・校務用パソコンについては、情報漏洩対策を講じて自宅への持ち帰りを可能とすることで、教職員各自の生活スタイルに合った働き方ができるようにする。

(3) 教育職員の健康及び福祉の確保に関する取組

教育職員の健康及び福祉を確保するため、労働安全衛生法等の規定を遵守するとともに、以下の内容に取り組む。

- ・ 1 箇月時間外在校等時間が 80 時間を超えた教育職員に医師等による面接指導を実施する。
- ・ 11 時間を目安とする勤務間インターバルの確保に取り組む。
- ・ 50 人未満の学校も含め、ストレスチェックの実施率を 100% にし、実施後の集団分析の結果等も活用して職場改善の改善を推進する。
- ・ 心身の健康問題についての相談窓口を設置する。
- ・ 年次有給休暇について、各学校に対して取得を促進する。
- ・ 令和 8 年度中に、学校における定時退校日を月 2 回以上設定するよう推進し、長期休業等の期間中に 4 日間の一斉閉校期間の設定を行う。

5. 関連する取組、今後のフォローアップについて

- ・ 取組の着実な実行を図るため、市内各学校の教育職員の在校等時間の状況を把握し、毎年度、裾野市教育委員会の HP で公表するとともに、定例の教育委員会及び総合教育会議において報告することとする。
- ・ 学校での児童生徒等の支援に当たる医療・福祉に関する人材の確保に当たり、関係部局・関係機関とともに取り組む。
- ・ 時間外在校等時間にかかる目標の達成状況については、本市で導入している出退勤管理システムで把握し、その他の目標については、本市で導入しているストレスチェックの結果から把握する。
- ・ 教育委員会において、各学校の状況を確認し、本計画の内容に照らして課題が見られるときは、当該学校に聞き取り・指導等を実施する。特に、時間外在校等時間が長時間となっている教育職員がいる学校や、業務の持ち帰りが課題となっている学校に対しては、当該年度中にも速やかに状況が改善されることを目指し、当該学校に対する個別の支援・指導を実施する。
- ・ 各学校における働き方改革の取組が進むよう、様々な機会を捉え各学校へ本計画の周知を行うとともに、管理職向けにマネジメント等に関する研修を充実させるなど、教育委員会からの支援を強化する。各学校においては、校長をはじめとした管理職のリーダーシップのもと、学校運営協議会における協議等も踏まえつつ、本計画に基づき、教職員の働き方改革に向けた取組を実施する。
- ・ 保護者、地域の理解を促進するため、首長部局と連携し、保護者や地域の各自治会等に対して、本市における「業務の 3 分類」をはじめとする業務量管理・健康確保措置の内容について周知を行うとともに、具体の項目について協力を得られるよう取り組む。